長野県地域おこし協力隊
令和2年度成果報告会

長野県地域おこし協力隊
杉山　豊

活動の趣旨

長野県は地域おこし協力隊受入れ**全国２位**で、現在**３５０名**の隊員が活動しています。受入れが多い分、多くの課題が山積しており、隊員の悩みも地域によって様々です。

どうやったら協力隊の活動しやすいフィールドづくりができるのか？隊員が活躍している地域や行政、隊員自身はどんな工夫をしているのか？

今年度に取り組んだ取材調査を通じて得た情報を、それぞれの地域で現在活動する隊員のみなさんや、ご担当される行政・地域のみなさんと**共有することで、よりよい地域づくりのきっかけとしていただきたい**と考えています。

地域おこし協力隊員の活動事例

～プロセスから見る、活動のポイントは～

事例紹介の趣旨

目的：情報共有によって、**現在課題を抱えている行政・地域・協力隊員と一緒に協力隊制度の活かし方を考えたい**

取材地域：県内で順調に活動ができている市町村をランダムにピックアップし、隊員のみならず、行政職員・地域住民の方などにもヒアリングを実施しました。

取材内容：

隊　員 →前職から協力隊になるまでのプロセス、着任後の活動内容や卒業に向けた活動、着任後の悩みや現在の課題など

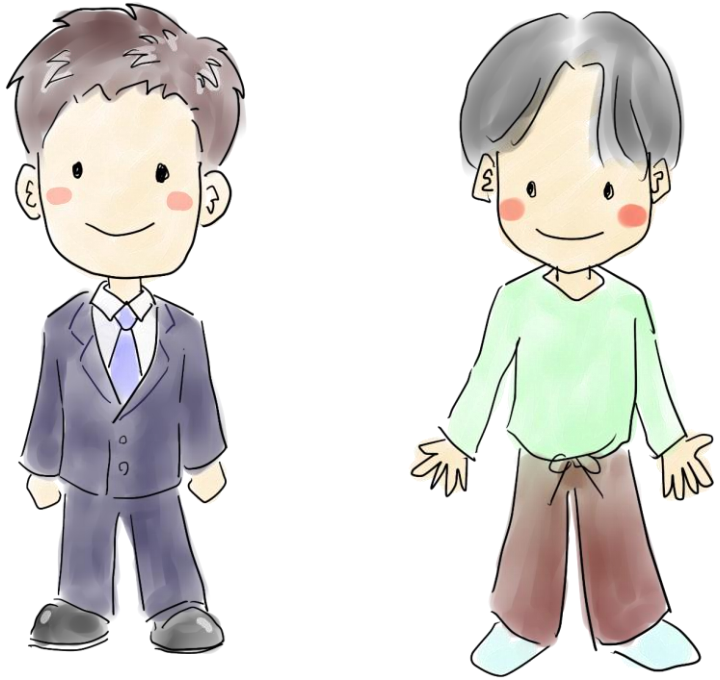
行政職員→担当者としての受入れや着任までの流れ、受け入れ後の工夫、制度設計など

地域住民→住民から見る隊員の動向や関わり方など（取材可能な場合のみ）

紹介する事例

≪目的≫
チャレンジ・定住

【事例の主な観点】
地域や行政との信頼関係づくり、
任期中のゴール設定



≪目的≫
起業

【事例の主な観点】
明確な着任目的、
地域や行政との協力や連携

事例１　Aさん（Uターン）

〔着任した理由〕

・地元は長野県　大学で首都圏へ移住

・大学を辞めたら長野に戻りたい

　→地元ではなく、他の市町村へ

　　ただ、何の仕事をするかなど特に目的もなく、やりたいこと

　　もなかったため、自分の武器になり得ることを模索

　→幼少期の自然体験を仕事にしたい！

・首都圏内で自然体験を事業にしていた会社に就職

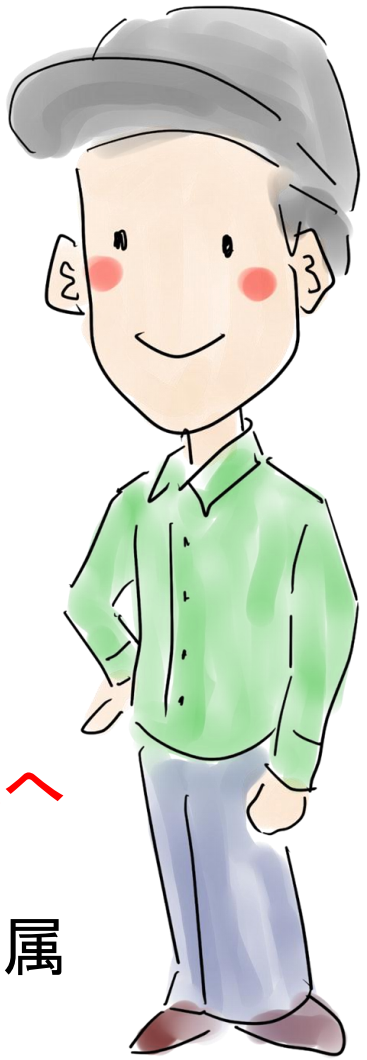
　→１年目で辞めたいと思ったが、踏ん張って４年勤務後協力隊へ

〔配属先〕

　（着任時）関係団体への出向　→　（途中から）役場部署の配属

〔活動分野〕

　観光振興など



Aさんの活動プロセス

１年目

前職
自然体験事業
運営会社

意気込み
自分の学びを活かしたい！
求められて入ってきた

現実
ここはお前の地元じゃない
税金の無駄遣い

出向先での
動きづらさ

地元の若者
との温度差

半年で限界を感じて異動を希望

協力隊の採用担当者に相談
→活動しやすいフィールドへ

協力者(担当者)
との出会い

外へ出ての活動
が可能に！！

２年目　３年目

地域や行政との信頼関係の再構築

・地域行事へ積極的に参加する
・就業規則を遵守する
・部署の事業を積極的に手伝う

【地域や行政の信頼を得る】

企画が通りやすくなる
協力が得やすくなる

副業の解禁

卒業後の不安もあり、役場に副業の解禁を交渉し、
許可を得る。↑協力者（担当者）の後押しあり

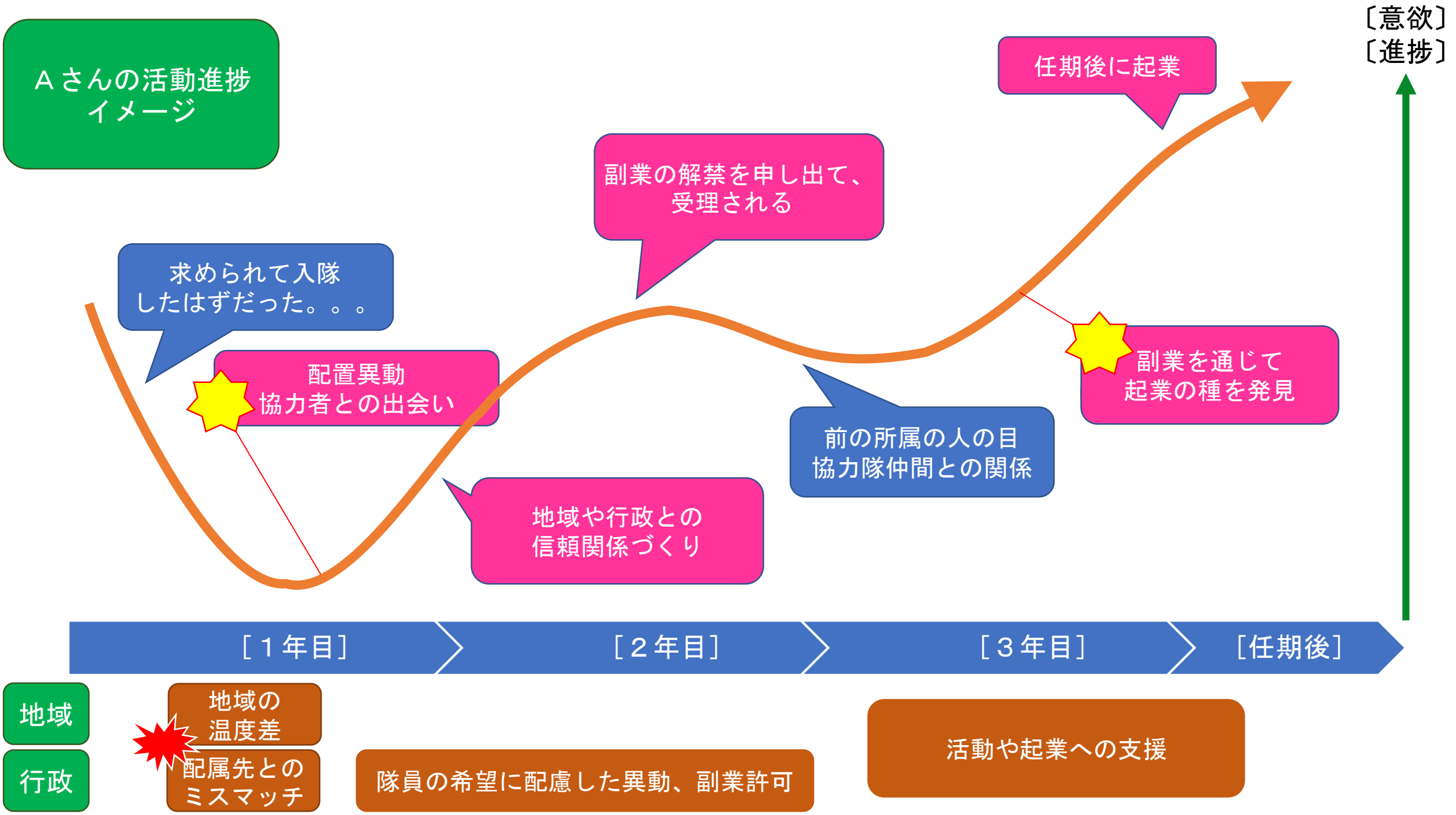
副業でやっていた子供向け体験事業に手応えを感じる

ひたすら卒業に向かって、PDCAを繰り返す日々

起業
の種

異動前の団体の目が
気になる
協力隊仲間との軋轢

◆卒業時にしっかり後押ししてもらえた。
◆数年後には、役所からの業務委託を受け
ることなどにもつながった


Ａさんの活動進捗
イメージ
〔意欲〕
〔進捗〕
任期後に起業
副業の解禁を申し出て、
受理される
求められて入隊
したはずだった。。。
配置異動
協力者との出会い
副業を通じて
起業の種を発見
前の所属の人の目
協力隊仲間との関係
地域や行政との
信頼関係づくり
［１年目］
［２年目］
［３年目］
［任期後］
地域
行政
地域の
温度差
配属先との
ミスマッチ
隊員の希望に配慮した異動、副業許可
活動や起業への支援

行政側の工夫

◇隊員とのコミュニケーションの工夫

①隊員を孤立させない　②隊員の悩みに耳を傾ける
③やりたいことをどうやったらできるか一緒に考える
④理事者を加えた定期面談

**隊員との思いの共有
活動の伴走**

◇制度の工夫

協力隊員と一緒に考え、制度を設計

**隊員が活用しやすい
制度設計**

- 活動支援補助金
  一定額、隊員自身が立てた計画に対し支給される補助金
- 定住支援補助金
  協力隊のみではなく、移住者が定住するための補助金。住宅改修などに利用可能。
  家族構成や地域活動への参加などの条件で変額する仕組み。
- 起業支援補助金
  協力隊のみではなく、住民が起業するための補助金。

・・・協力隊員に伝えたいこと・・・

他人の土俵に上がれているのか？

→まずは<u>相手に受け入れてもらうこと</u>
から受け入れてもらえなければ
前に進むことは難しい

事例２　Ｂさん（Ｉターン）

【着任した理由】
・地元は他県
・山が好きで以前より何度か長野県を訪れていた
・協力隊として何かがしたいという思いは特になかった
・とにかく山の近くで景観や適度な田舎感を優先
・協力隊制度を知って、移住のきっかけになった
　→着任先の市町村名は移住を決めるまで知らなかった。

【配属先】
　役場移住促進部署

【活動分野】
　移住促進、空き家対策など

Bさんの活動の主なプロセス

１年目

前職
事務職

何をしていいかわからない
周りに知り合いもいない
明確な目的が無いという迷い

孤独感　活動への迷い

行政の姿勢への疑問。
「本当に移住者を増やしたい？」

先輩隊員も淡々と業務をこなしているだけに見えた。自分の業務に必死で連携を取れなかった。

行政や先輩隊員の姿勢に疑問

２年目

企画提案

やってみたいことを企画書に！

しっかりと企画し、担当者へ提案

担当者も素直に応援してくれた！
企画の中には、
・狩猟
・農業
・地元の人が集まれる場づくり
などが盛り込まれていた。

後輩隊員の入隊

自分がして欲しかったフォローを後輩に実践

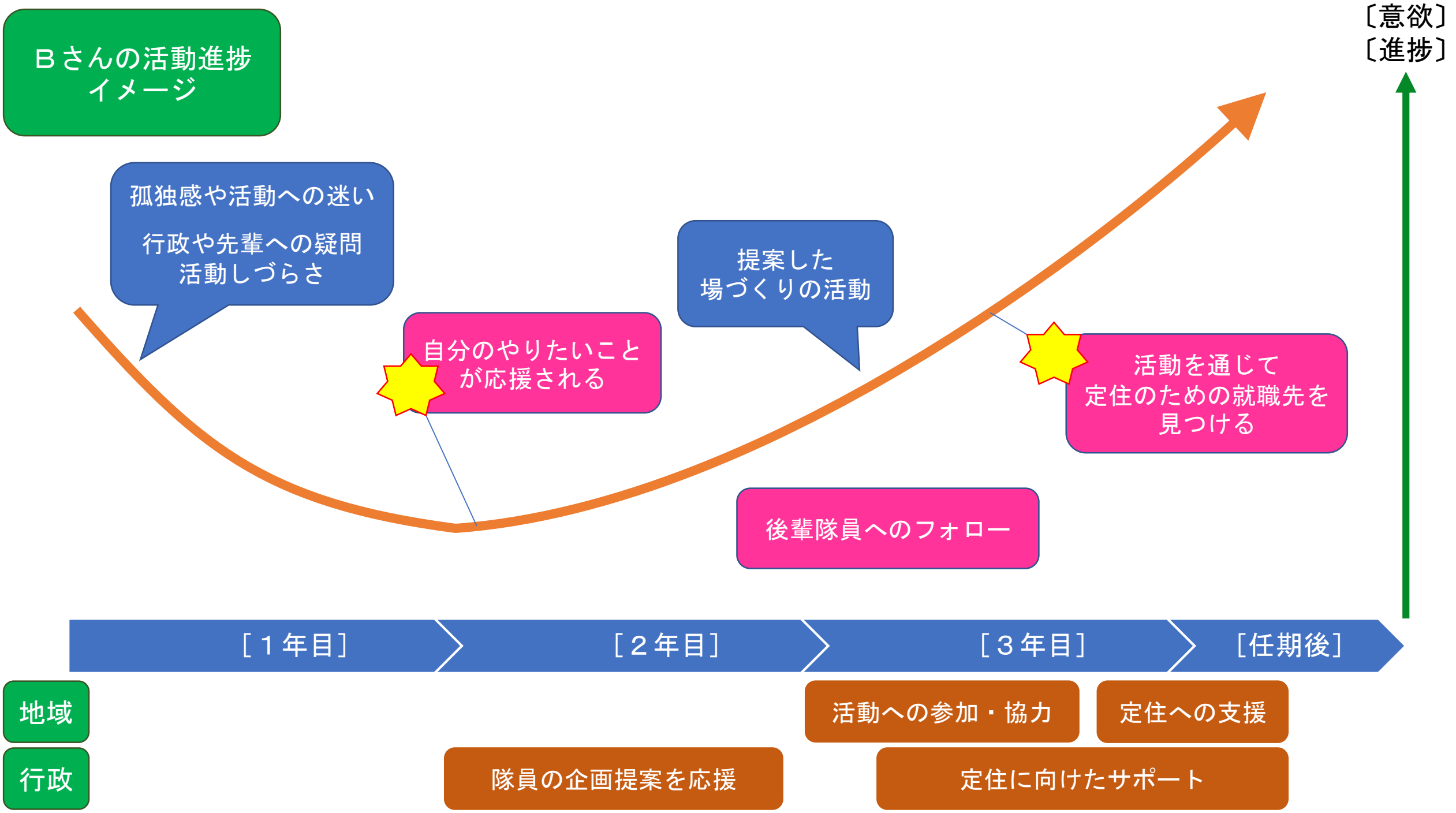
(後輩の声)移住セミナーでの出会いがきっかけとなり、現地訪問のときもたくさんの人につないでくれた。先輩がいたから移住を決意した。

３年目

各地の公民館を利用して、地域の方々の集まれる場づくりを実践。収益を出さず、活動費の一部と地域の方からのカンパのみで運営。

定住のための就職

当初から起業したいなどの意志はなかったが、この地域に定住したい思いが強まり、場づくりで出会う地域の方に相談していたところ、就職先を紹介してもらえた。
行政からの支援のおかげもあり定住することが決まった。


Ｂさんの活動進捗
イメージ
〔意欲〕
〔進捗〕
孤独感や活動への迷い
行政や先輩への疑問
活動しづらさ
自分のやりたいこと
が応援される
提案した
場づくりの活動
活動を通じて
定住のための就職先を
見つける
後輩隊員へのフォロー
［１年目］
［２年目］
［３年目］
［任期後］
地域
行政
活動への参加・協力
定住への支援
隊員の企画提案を応援
定住に向けたサポート

行政側の工夫

隊員/職員同士のコミュニケーションの機会確保

◇隊員とのコミュニケーションの工夫

複数部署で採用があるため、月に一度全体ミーティングを実施。
各部署の担当者のミーティングも実施予定。
→部署ごとでの環境や温度の差を無くす必要がある。

ミスマッチ対策

◇隊員採用の工夫

各部署からの採用希望を必ずチェックし、人足採用になりそうな案件は再検討させて、総合計画と照らし併せつつ必要な人物像を絞り込み

◇制度の工夫

活動しやすいフィールドづくり

・活動支援補助金
一定額まで活動に必要な物品を購入できる補助金

・特別休暇制度
有給休暇とは別に、資格取得や定住に向けた取組で業務時間にすべきか曖昧な案件のときに活用できる休暇を年間10日付与

・・・任期後に向けて・・・

活動の土台づくりが大切！！

→着任当初に任期後の明確な目的がなくても、信頼関係など土台作りに取り組んでおくと、いざという時に応援してくれる、動きやすい環境ができる。

・・・任期後は起業だけじゃない・・・

自分のゴール設定を考える

→任期後は起業？就職？
　定住を目指すなら【起業】だけではなく【就職】も選択肢

事例３　Ｃさん（Ｉターン）

【着任した理由】

・地元は他県

・前職は東京の会社に勤務

・長野県で起業したかった

・育児、食環境を求めて家族で移住

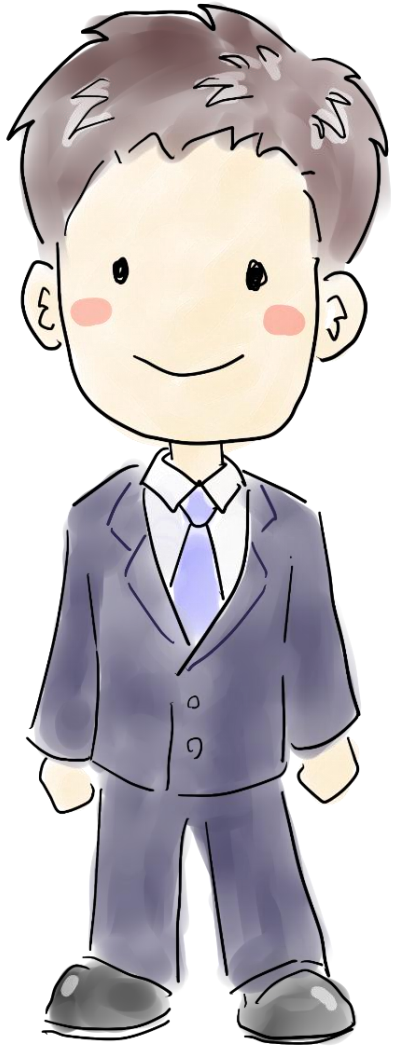
→ミッションと起業/移住目的が合致

【配属先】

役場支所に配属

【活動分野】

農業振興など



Ｃさんの活動の主なプロセス

１年目

Ｃさん

前職：商社

着任後は地域との信頼関係構築のため、積極的に地域行事や地区役員、役所の事業に参加。

信頼関係づくりは当たり前として取り組む

行政と民間企業の捉え方の違い

契約書や募集要項に関する捉え方の違いに困惑。
任期中の起業に向けて苦労。

協力隊交流会での出会い

他市町村の協力隊（Ｄさん）と起業に向けて連携

２年目

協力者との出会い

担当者が、Ｃさんの能力や地域活動への姿勢を認め、活動はＣさん自身に任せる
任期中の起業の許可についてサポート

起業

行政と折衝を繰り返し、起業！

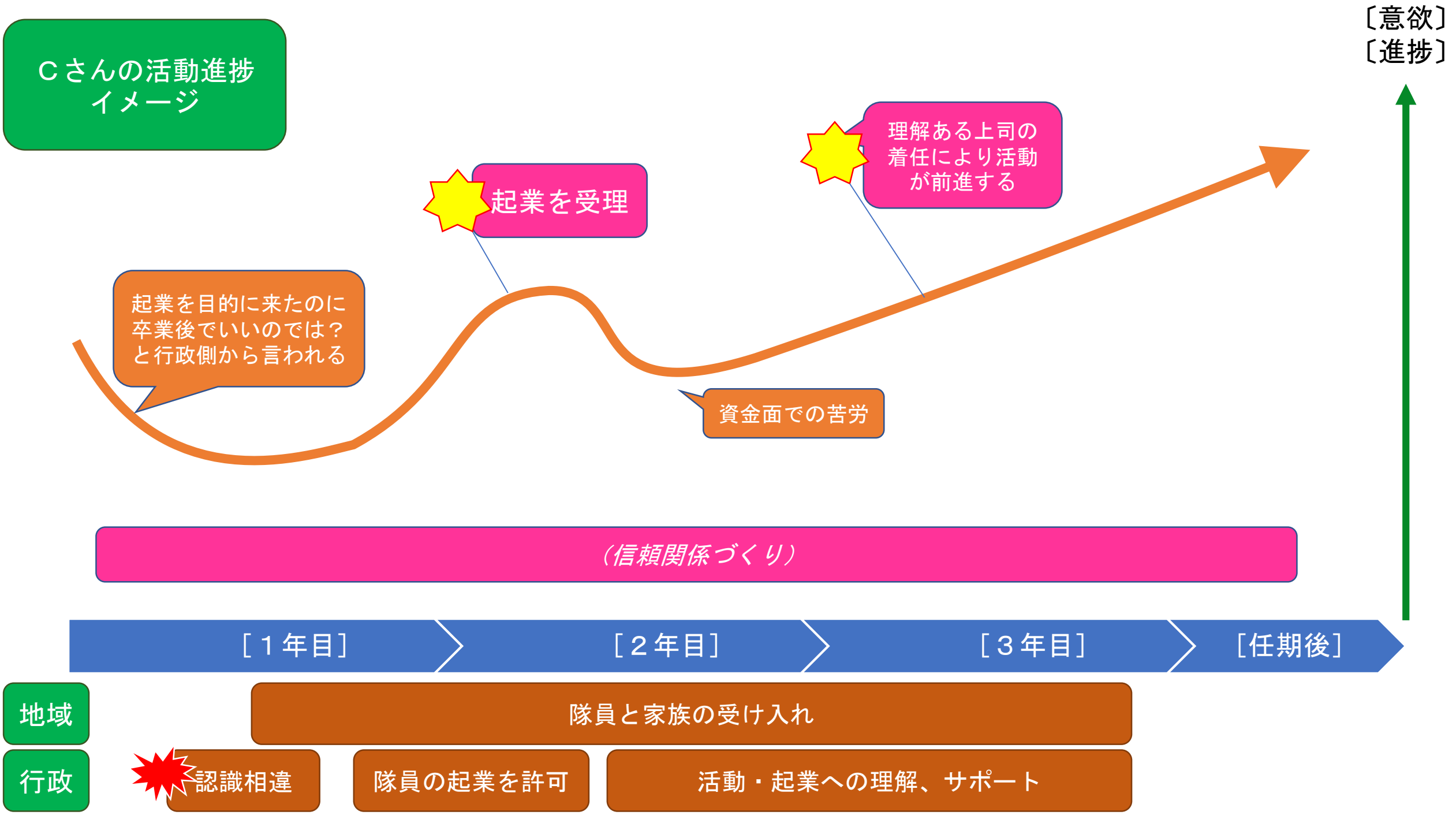
資金面での苦労

起業した会社の資金面のやりくりに苦労

３年目

移住で家族がしあわせに暮らしているリスクはあるものの、自己実現のために起業

事業の自立運営を目指して活動


Ｃさんの活動進捗
イメージ
〔意欲〕
〔進捗〕
起業を受理
理解ある上司の
着任により活動
が前進する
起業を目的に来たのに
卒業後でいいのでは？
と行政側から言われる
資金面での苦労
（信頼関係づくり）
［１年目］
［２年目］
［３年目］
［任期後］
地域
隊員と家族の受け入れ
行政
認識相違
隊員の起業を許可
活動・起業への理解、サポート

行政側の課題として感じること（担当者意見）

- 本来は協力隊を活かすビジョンを行政が作るべきだが、行政目線では中々難しい。
- 起業経験がない職員の支援も困難。
  →専門家や経験者による支援が必要

- 使い捨て人材の採用にならない計画
  →外から人材を呼ぶ必要性自体の見直しが必要

- 地域への周知の難しさ
  →どれだけ周知しても、地域から活動が見えないという意見が今でもある

- 3年間のビジョンの策定
  →どう活動していけば持続可能な事業へ結びつくのか？

隊員側の課題として感じること（隊員意見）

- 協力隊制度が生活支援のようになってしまっているのではないか？
  →協力隊制度を使って何を成すのか、隊員自身がもっと考えなくてはいけないと感じている。（定住・起業・就職など）
- 協力隊というネーミングによって、遊んでいるように思われることもある。
  →真剣に活動をしていても、協力隊＝お手伝いみたいなイメージがついて回る。
- 様々な支援機関があるが、マッチングも重要
  →誰に、どのような支援を受けるのか？人によって合う合わないもあるため、マッチングの場があるといい。

事例４　Ｄさん（Ｉターン）

【着任した理由】

・地元は他県

・前職は東京の会社に勤務

・長野県で起業したかった

・起業のために協力隊制度を活用

→ミッションと目的は違ったが着任

【配属先】

関係団体への出向

【活動分野】

団体施設の企画運営など

Ｄさんの活動の主なプロセス

１年目

Ｄさん　前職：営業

とにかく起業するための準備期間のつもりでいたが、実際に着任すると出向先の理解が違った。
出向先での業務時間が長く、時間外はアルバイトとしても従事

出向先との認識相違、収入の少なさによる悩み

出向先や地域との関係をつくるため、業務をしっかりとこなし、地域行事などに積極的に参加

信頼関係づくり

協力隊交流会での出会い

他市町村の協力隊（Ｃさん）と起業に向けて連携

２年目

出向先の業務だけでは起業できない…

地域活動の開始

業務時間の中で、地域活動（自主企画）を行うための時間を増やすことを提案し、承認。

１年目にしっかり業務に従事していたことで行政や出向先との信頼関係ができていたことが、理解されることにつながった。

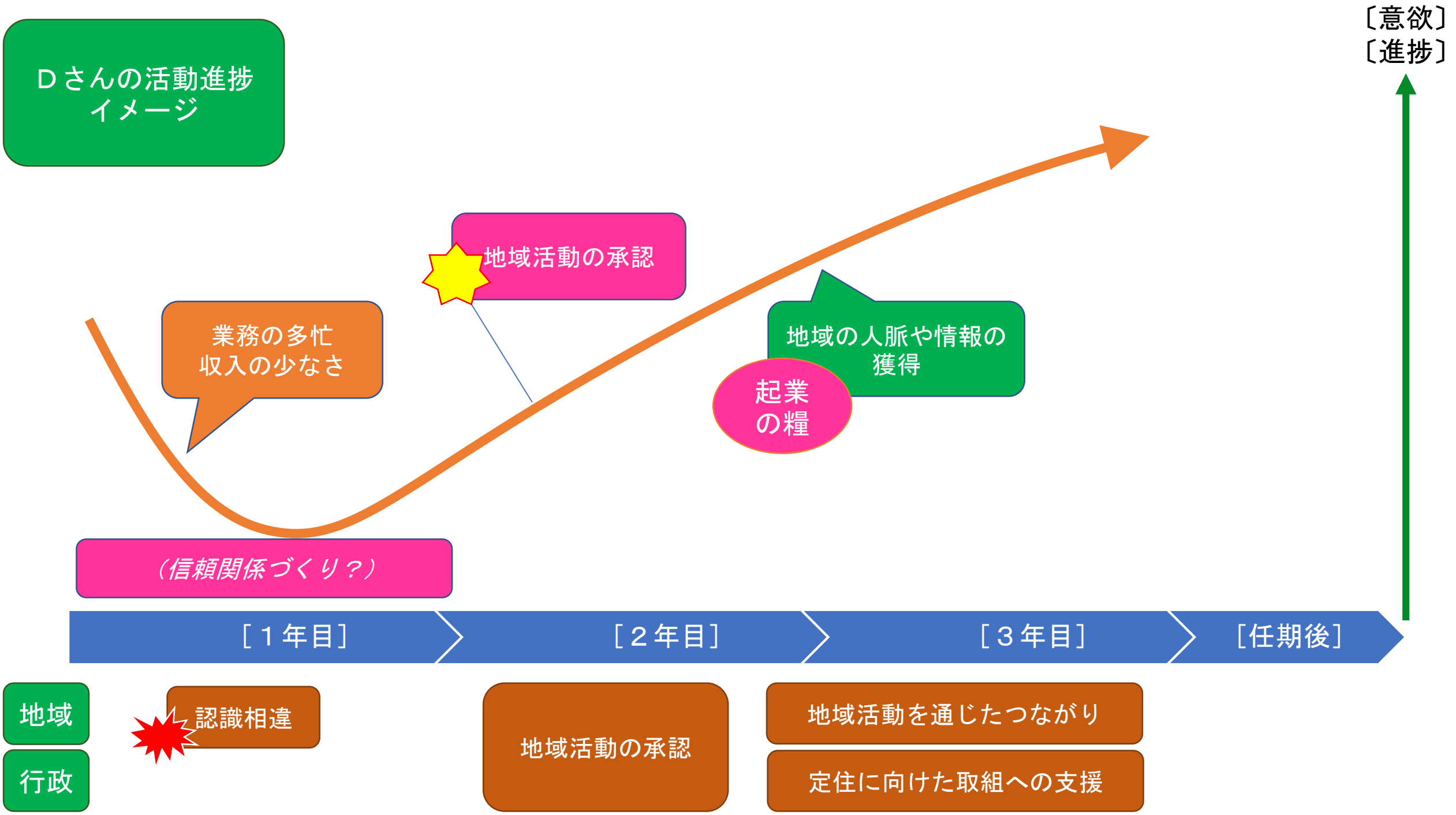
地域活動を通じて、
地域のキーマンとのつながり、
様々な地域の情報などを得る。
他市町村の協力隊とも積極的な交流を実施。

起業の糧

３年目

起業、起業準備

Ｃさんとの会社運営と、個人事業の準備を並行
定住に向けて自立を目指す！
起業を通じて地域への恩返しをする！


Ｄさんの活動進捗
イメージ
〔意欲〕
〔進捗〕
地域活動の承認
業務の多忙
収入の少なさ
地域の人脈や情報の
獲得
起業
の糧
（信頼関係づくり？）
［１年目］
［２年目］
［３年目］
［任期後］
地域
行政
認識相違
地域活動の承認
地域活動を通じたつながり
定住に向けた取組への支援

行政側の工夫

◇隊員と組織のコミュニケーションの工夫

　本庁ー支所、役場ー出向先団体と関係する組織が複数あるが、例えば隊員と出向先団体との調整に役場が間に入るなど、お互いのコミュニケーションの調整役を置いている。

隊員と組織のコミュニケーションの調整

◇隊員の自主的活動への工夫

　隊員が希望する活動や起業への取組に対して、業務時間の確保や自主性を尊重するサポートを実施し、任期後に向けて自主努力を促している。

活動しやすい環境づくり

まとめ

協力隊になった理由

１．その場所で起業したかった
２．前職の経験を活かして地域で働きたかった
３．起業準備の副収入として
４．事業、技術承継したい

５．その地域で住んでみたかった
６．楽しそうだったから
７．仕事がなかなか見つからなかった
８．都会で働くのに疲れたから

どうやるかから
のスタート

制度を利用して
スキルアップや
次のキャリア形成

制度を利用して
移住や環境のリセット

何をやるかから
のスタート

≪４つのケースから見えてくるポイント①≫

１．<u>信頼関係の構築</u>

　どのケースも行政や地域との信頼関係や繋がりづくりのためにしっかり時間をかけて努力している。

　時には、自分のやりたいことを横においてでも、この時間を創ることでその後の活動の基盤を築いている。

２．<u>協力者との出会い</u>

　キーパーソンとなる地域住民や行政職員などとの出会いによって、しっかりとした地固めや活動の幅の拡大ができている。

３．<u>行政担当者の協力</u>

　隊員とのコミュニケーションや活動しやすい環境づくりに腐心している地域では、隊員自身が任期後に向けた道筋を自ら探し出している。

≪４つのケースから見えてくるポイント②≫

４．<u>隊員自身の目標設計</u>

　いずれかの段階で、自分自身のゴールが明確になることで、そこに向かって先の展望をしっかり見据えて、歩みを進められている。

５．<u>自分のスキルを活かしたチャレンジ</u>

　隊員活動や任期後に向けた取組の中で、自分のスキルや個性を活かし、できることにチャレンジし、様々な成果を生み出すことで、地域や行政の見方や感じ方に大きな影響を与えている。